

次元の低い“考えすぎ”

このごろは、よろず即物的で夢がない。すべてのものが量ではかれ、ものごとの質はしばしば無視される。何事であれ、迅速・能率的・大量は善、その反対は悪であるかのように押し進められている。豊かであることが進歩の一つの標徴であり、便利であることが文明だか文化だかの指標であるということは真実かも知れない。アメリカまでSSTなら2時間で行けるというのは人類の(本当は機械の)勝利であろう。しかし早く行きたくない人が選択の自由を奪われたり、アメリカに行くはずもない人にまるでわがことのように錯覚させたり、今の苦しみに対する代償的な喜びというまぼろしだけを与えるのでは、人間存在の本来からみて進歩だよかったとばかりもいえないだろう。

先日ある対談で、“もうこれ以上便利にして欲しくありません”と切なくある人の語っているのをみた。狭い国土が、“便利で豊かな人生を楽しむ”とやらの目的のために、片端から押しつぶされ、均平・等質化され、われわれの自然も“人間を楽しませるため”という“たてまえ”のもとに、現実には最も“人間”の住みにくい形に変えられて行く。TVやマスコミの偉力によってすべてに画一化現象が進み、しばしば、“感動にも質がある”という簡単なお話すら忘れられてしまう。

植調協会のお手つだいをしながらしばしば考える。この仕事は農家の幸せとやらを願って進められているはずだが、農作業の能率を向上させ、労働生産性を高めること、より便利により早く作業ができてレジャーとやらの機会を増すようにすること、そしてそして……、それら

目 次

昭和44年度春夏作そさい・花き関係
除草剤、生育調節剤試験成績概要(1)

昭和44年度春夏作そ菜・

花き関係審査判定表…………… 2

A 除 草 剤…………… 5

農林省園芸試験場・そ菜部

西 貞 夫

除草剤の普及について

一 熊本県編 一

1. 雑草についての熊本県の環境… 14

2. 除草剤の使用実態…………… 14

3. 除草剤普及の効果…………… 15

4. 除草剤普及にとった手段…………… 16

熊本県農政部農業改良課

専技 林 田 進

農林省北海道農業試験場

作物第1部稲第2研究室の紹介

柿 本 彰…………… 17

新除草・調節剤

LINURON W.P…………… 18

は本当に農家の人としての生き方を広くし、生きる喜びを増すものであろうか、反対に農業の荒廃とすべての画一化現象に力のかすものではないのか、などなど。仕事の中にもみ喜びを感じ、楽しむすべを知らないといわれる“大正生れ”の“考えすぎ”であれば幸せである。

(農林省園芸試験場・そ菜部 西 貞 夫)